

免疫は抑制してはいけません。
病気は自分の免疫が治します。

「シェーグレン症候群と言われて」匿名希望

49 歳

2016年7月26日

私が初めて、シェーグレン症候群と言う病名を耳にした時は、「膠原病？何それ？なんで私が？」と信じられない不安な気持ちになったのを覚えています。もともと結膜結石アレルギーができて目がゴロゴロするので、眼科で点眼麻酔をして取ってもらっていました。そして処置後にはお決まりのごとくステロイド点眼薬が処方されました。そしていつの間にかドライアイになってしまいました・・・。

そのころから更年期障害のような症状も色々出始め、台所に立つのもしんどくて、すぐに横になっていました。動悸がするようになり近所の内科を受診、ホルター心電図をとってもらおうと、不整脈はあるが、治療の必要性はないとのことでした。しかし、血液検査の結果膠原病の疑いがあるとのことで、後日さらに詳しい結果が出てシェーグレン症候群と言われました。

CRPなどの炎症反応がないので、血液検査にて経過観察でよいとのことでした。私はドライアイがしっかりありましたが、関節の痛みはなく、症状は、首や背中での痛み、手足のしびれ、筋肉痛、ふらつき、めまい、頭痛、倦怠感でした。内科の医師に、「シェーグレン症候群とはあまり関係ないから婦人科を受診してはどうか。」と言われました。

婦人科に行くと多分ホルモン治療になりそうだから、不自然な治療に納得いかず、パソコンで自分の症状を調べているうちに、ラッキーなことに松本医院のホームページに出会えたのでした。

ステロイド点眼薬のために膠原病になったこと、そして今起こっている不快な症状はヘルペスウイルスが関与していることがわかりました。

現在治療開始から3年余り経ちます。ドライアイは数ヶ月で一旦改善したので、煎じ薬が変わりました。すると、またひどくなったのでドライアイ煎じ薬に戻していただいたら3ヶ月で改善し、今は気になりません。

松本先生の書かれている「補体について」というコラムがあります。正直何度読んでも難しいです。シェーグレン症候群もヘルペスのEBウイルスが関わ

っているようです。更年期の私は、ここ数年ヘルペスによる神経症状と戦っています。女性は黄体ホルモンと呼ばれるプロゲステロンを生理前の2週間にわたり毎月40年近く作り続けます。プロゲステロンはステロイドホルモンの一種です。すなわち生理の度にプロゲステロンを分泌し、ヘルペスを増やしてしまっただけです。まだしつこく毎月生理がやってきます。前後は免疫が上がるのでさらに戦いが激しいです。そして低気圧にも左右され、梅雨時はとてもきつかったです。

現在はヘルペスの免疫を上げる煎じ薬とめまいの煎じ薬と抗ヘルペス剤を飲みそして毎日のお灸です。松本医院を受診したおかげで、免疫は抑制してはいけないこと、病気は免疫を上げて自分の免疫が治すことがよくわかりました。まだクラススイッチはしていませんが、あせらずこれからも肩肘はらずに免疫を上げる努力あるのみです。

松本先生はじめ医院のみなさまこれからもよろしく願いいたします。